

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 科目名                                 | 看護科学特論Ⅲ Advanced Topics in Nursing Science Ⅲ  |
| 授業形態                                | 講義  |
| 標準履修年次                              | 2年次   |
| 実施学期・曜時限等                           | 春AB 応談  |
| 単位数                                 | 2単位   |
| 担当教員名                               | 岡山 久代 Hisayo Okayama<br>川野亜津子 Atsuko Kawano   |
| ティーチングフェロー(TF)・<br>ティーチングアシスタント(TA) | なし  |
| オフィスアワー等                            | 岡山 久代 4B棟 509 okayama@md.tsukuba.ac.jp<br>オフィスアワーは特に定めませんが、事前連絡をしてから訪問すること  |
| 授業の到達目標<br>(学習成果)                   | 高度化、複雑化する医療や母子のおかれた環境を複数の科学的視点からとらえ、把握することができる。<br>母子の健康上の問題点を解決するための情報を収集し、分析し、根拠に基づく看護支援を理解できる(EBN=Evidence Based Nursing)。<br>母子の健康問題を整理し、解決策を考案し、それを評価する方法を考えることができる。<br>研究や学会活動に関心を持ち、カンファレンスや集会に積極的に参加できる。<br>ウィメンズヘルス看護学・助産学グループにおいて、チーム研究のリーダーとして研究に取り組む。 |
| 他の授業科目との関連                          |   |
| 履修条件                                | なし  |
| 授業概要                                | ウィメンズヘルス看護学・助産学の視点から、女性と家族の発達支援、健康回復・促進に関する看護実践を目指して、今後の看護科学発展に向け、独創的で創造的な研究課題に取り組むために必要な知識と研究技法について教授する。   |
| キーワード                               | 女性の健康 Women's Health<br>生涯発達看護支援 Life Span Development Nursing<br>家族発達支援 Family Development Nursing<br>助産学研究 Midwifery Research   |

|                         |   |
|-------------------------|---|
| 授業計画                    | <p>文献クリティークを基本に行う。必要な事前準備をして講義に臨むこと。<br/>         なお、グループディスカッションの時間を設ける。</p> <p>1 (4/15 5-6限) (授業のガイダンス) (岡山・川野)<br/>         2 (4/22 5-6限) (女性のライフサイクルと健康に関する課題) (岡山・川野)<br/>         3 (5/9 5-6限) (女性のリプロダクティブヘルスとヘルスプロモーション) (岡山・川野)<br/>         4 (5/13 5-6限) (思春期の健康支援・性教育) (岡山・川野)<br/>         5 (5/20 5-6限) (不妊および不妊症の女性・カップルへの健康支援)<br/>         6 (5/27 5-6限) (妊娠期・分娩期の女性・家族の発達課題と健康支援) (岡山・川野)<br/>         7 (6/3 5-6限) (周産期における親子関係の支援) (岡山・川野)<br/>         8 (6/10 5限) (ハイリスク新生児と家族への看護) (岡山・川野)<br/>         9 (6/17 5-6限) (疾患を持つ子どもと家族への看護) (岡山・川野)<br/>         10 (6/24 5-6限) (更年期にある女性への健康支援) (岡山・川野)</p> |
| 学修時間の割り当て及び授業外における学修方法  | <p>講義(50%)と演習(50%)を併用する</p> <p>講義ごとに課題を提示することがあるので、事前に確認すること<br/>         自分の研究テーマに関連した領域・看護分野の論文を精力的に読み進めるとともに、教員や学生間の討論を通し、科学的思考を身につける。</p>   |
| 成績評価方法                  | <p>&lt;評価方法と配分役割&gt;<br/>         授業の到達目標の達成状況60%, 授業内での発表内容・参加状況40%</p> <p>&lt;評価基準&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>適切な問題を設定できる。</li> <li>設定した問題の背景を説明できる。</li> <li>設定した問題に対してどのような課題があるのかを指摘できる。</li> <li>その解決策について、先行研究がどのように述べているかを挙げる事ができる。</li> <li>既存の意見をふまえて、自らの考えを述べる事ができる。</li> </ol> <p>上記に対応した評価基準は以下のとおりである。</p> <p>A+ 上記1～5を自身で達成できる。<br/>         A 上記1～5をほぼ自身で達成できる。<br/>         B 上記1～5を教員の指導を受けながら達成できる。<br/>         C 上記1～5を教員の指導を受けながら概ね達成できる。</p>   |
| 教材・参考文献・配布資料等           | <p>取り上げる文献については、事前に連絡をする。研究方法の資料等は各自で必要に応じて準備すること。</p>  |
| その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等) |   |